

# 青森県経済統計報告

平成 22 年 2 月 1 日  
企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（平成 22 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,380,834 人（対前月 566 人減少）
自然動態	537 人減少（出生者数 781 人、死亡者数 1,318 人）
社会動態	29 人減少（転入者数 1,163 人、転出者数 1,192 人）

## 2 本県の経済動向（平成 21 年 11 月・12 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

**本県経済は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。**

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 21 年 11 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 98.0 で、前月比 4.3%の上昇となり、2 ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は 98.8 で、前年同月比 1.3%の低下となり、14 ヶ月連続で前年同月を下回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 21 年 11 月の定期給与は 218,821 円で前年同月比 2.9%減となった。総実労働時間は 156.8 時間で前年同月比 0.1%増、所定外労働時間は 8.8 時間で前年同月比 4.3%減となった。平成 21 年 12 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.30 倍で、前月比 0.01 ポイント上回った。 … 3
- (2-3) 物価 平成 21 年 12 月の青森市消費者物価指数(平成 17 年=100)は、総合指数が 99.9 となり、前月と比べ 0.4%の上昇、前年同月と比べ 1.2%の下落となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成 21 年 11 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 128 億 700 万円 で前年同月比 7.2%減と 12 ヶ月連続で、既存店ベースでは 8.8%減と 16 ヶ月連続で減少となった。平成 21 年 12 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 2,739 台で、前年同月比 30.8%の増となり、5 ヶ月連続で前年を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 21 年 12 月の新設住宅着工戸数は 606 戸で、前年同月比 6.9%増となり 9 ヶ月ぶりに前年を上回った。 … 6
- (2-6) 電力 平成 21 年 12 月の大口電力使用量は 2 億 500 万 kWh で、前年同月比 0.2% 減となり、13 ヶ月連続で前年を下回った。 … 6

### （3）景気動向指数（平成 21 年 11 月分）…………… 7

先行指数	77.8%（6 か月連続で 50%を上回った）
一致指数	50.0%（2 か月連続で 50%となった）
遅行指数	83.3%（2 か月ぶりに 50%を上回った）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 22 年 1 月期）…………… 8

3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I ……34.3（前期比 3.2 ポイント減、10 期連続で 50 を下回る）  
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I ……42.7（前期比 1.7 ポイント増、10 期連続で 50 を下回る）

# 1 青森県の推計人口（平成22年1月1日現在）

## 【概況】

平成22年1月1日現在の本県推計人口は、1,380,834人で、前月に比べ566人の減少となった。

### ○自然動態

出生者数が781人、死亡者数が1,318人で、537人の減少となった。

### ○社会動態

転入者数が1,163人、転出者数が1,192人で、29人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数		社会増減数		県外からの転入者数	県外への転出者数	
		男	女		出生者数	死亡者数	増減数	増減数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	
21.1.1	1,392,976	654,990	737,986	-0.050%	-694	-536	813	1,349	-158	1,265	1,423
21.2.1	1,392,029	654,468	737,561	-0.068%	-947	-594	901	1,495	-353	1,286	1,639
21.3.1	1,391,164	653,996	737,168	-0.062%	-865	-557	679	1,236	-308	1,259	1,567
21.4.1	1,385,598	651,094	734,504	-0.400%	-5,566	-513	814	1,327	-5,053	4,158	9,211
21.5.1	1,385,096	650,947	734,149	-0.036%	-502	-437	829	1,266	-65	4,232	4,297
21.6.1	1,384,450	650,589	733,861	-0.047%	-646	-464	796	1,260	-182	1,367	1,549
21.7.1	1,383,903	650,327	733,576	-0.040%	-547	-538	780	1,318	-9	1,468	1,477
21.8.1	1,383,441	650,121	733,320	-0.033%	-462	-430	804	1,234	-32	1,949	1,981
21.9.1	1,383,069	649,947	733,122	-0.027%	-372	-379	796	1,175	7	2,001	1,994
21.10.1	1,382,517	649,689	732,828	-0.040%	-552	-412	807	1,219	-140	1,538	1,678
21.11.1	1,381,946	649,441	732,505	-0.041%	-571	-496	789	1,285	-75	1,488	1,563
21.12.1	1,381,400	649,129	732,271	-0.040%	-546	-499	799	1,298	-47	1,258	1,305
22.1.1	1,380,834	648,752	732,082	-0.041%	-566	-537	781	1,318	-29	1,163	1,192

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12	18.12	19.12	20.12	21.12	22.12
自然動態	出生者数	1,000	1,015	976	898	896	879	790	786	769	813	781
	死亡者数	1,089	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222	1,208	1,289	1,303	1,349	1,318
	自然増減数	-89	-50	-216	-264	-248	-343	-418	-503	-534	-536	-537
社会動態	県外からの転入者数	1,309	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275	1,184	1,212	1,162	1,265	1,163
	県外への転出者数	1,261	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419	1,484	1,349	1,412	1,423	1,192
	社会増減数	48	48	127	-242	-167	-144	-300	-137	-250	-158	-29

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）。

※2 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※3 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

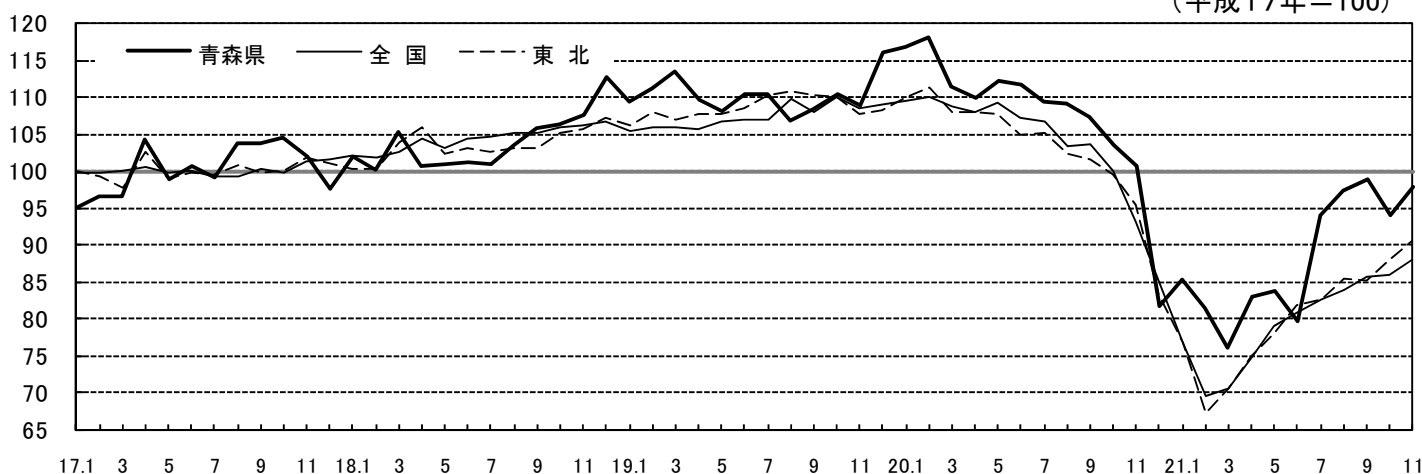
#### (2-1) 製造業の生産

平成21年11月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が98.0で、前月比4.3%の上昇となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は98.8で、前年同月比1.3%の低下となり、14ヶ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きを見ると、一般機械工業、食料品工業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、電気機械工業、鉄鋼業、電子部品・デバイス工業などが低下し、鉱工業全体では4.3%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成17年=100)

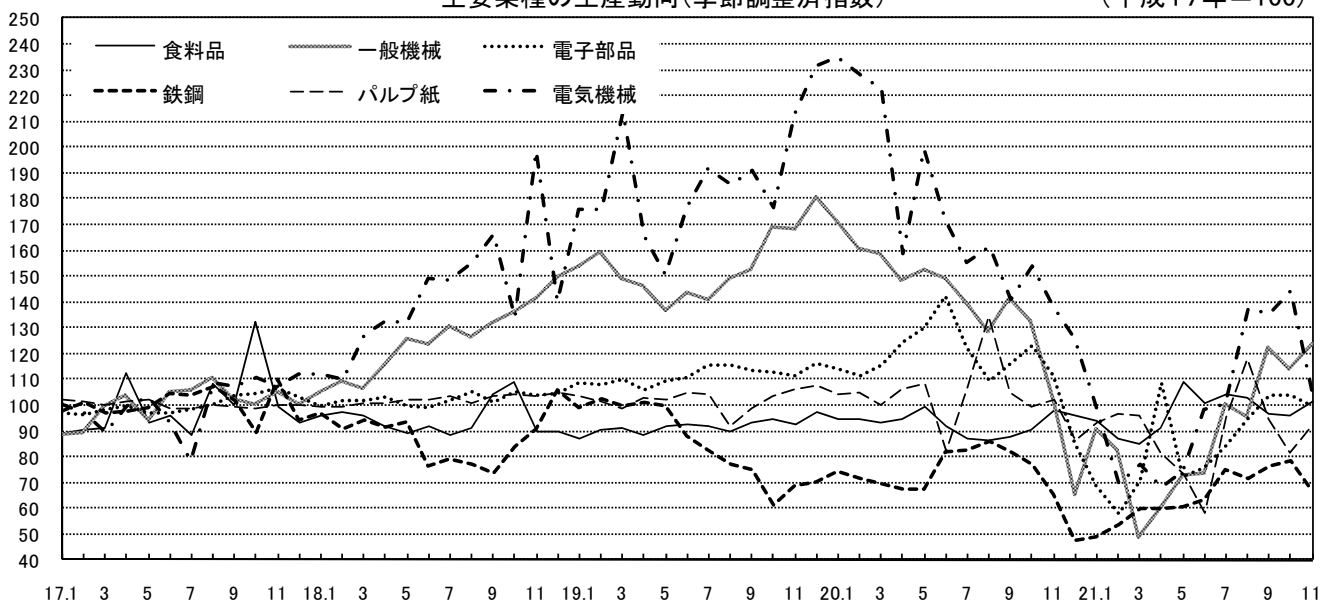


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 +4.3%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
一般機械工業	8.6	58.7	電気機械工業	-27.3	-103.2
食料品工業	5.5	56.9	鉄鋼業	-14.4	-54.4
金属製品工業	20.5	43.9	電子部品・デバイス工業	-3.6	-19.5
その他製品工業	59.3	42.5	石油・石炭製品工業	-25.7	-3.1
パルプ・紙・紙加工品工業	13.5	42.4	化学工業	-2.1	-2.6

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



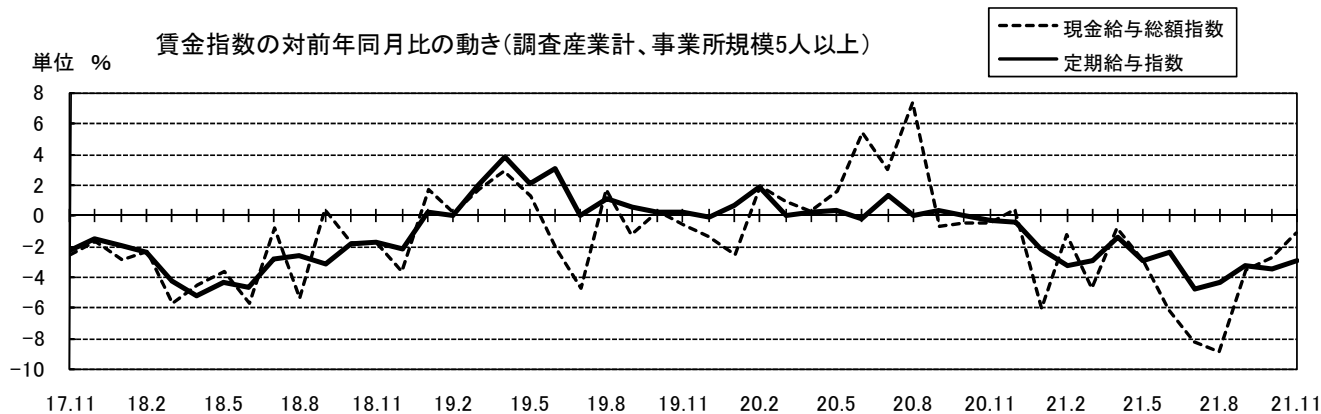
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用情勢

平成21年11月の定期給与は218,821円で定期給与指数(平成17年=100)では95.1となり、前年同月比2.9%減(現金給与総額224,090円、現金給与総額指数82.1、前年同月比1.2%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.3となった。

総実労働時間は156.8時間で、総実労働時間指数は98.4となり、前年同月比0.1%増となった。このうち、所定外労働時間は8.8時間で、所定外労働時間指数は88.9となり、前年同月比4.3%減となった。

平成21年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.30倍で、前月比0.01ポイント上回った。



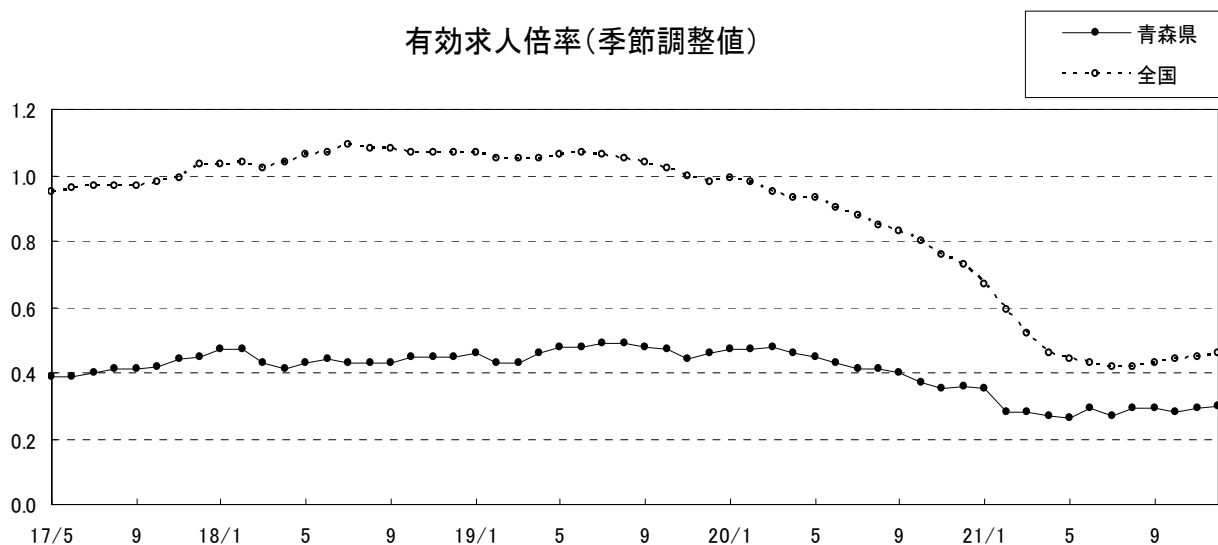
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	224,090 円	278,328 円	82.1	83.9	-1.2 %	-2.4 %
定期給与	218,821 円	262,557 円	95.1	97.2	-2.9 %	-1.5 %
特別給与	5,269 円	15,771 円	—	—	—	-14.4 %
総実労働時間	156.8 時間	146.5 時間	98.4	97.1	0.1 %	-1.3 %
所定内労働時間	148.0 時間	136.7 時間	99.1	97.6	0.4 %	-0.7 %
所定外労働時間	8.8 時間	9.8 時間	88.9	92.5	-4.3 %	-8.5 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

## (2-3) 物価

平成 21 年 12 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100）は、総合指数が 99.9 となり、前月と比べ 0.4%の上昇、前年同月と比べ 1.2%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は 100.1 となり、前月と比べ 0.2%の上昇、前年同月と比べ 0.9%の下落となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は 97.9 となり、前月と比べ 0.1%の下落、前年同月と比べ 0.9%の下落となった。

総合指数が前月と比べ 0.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ 1.2%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

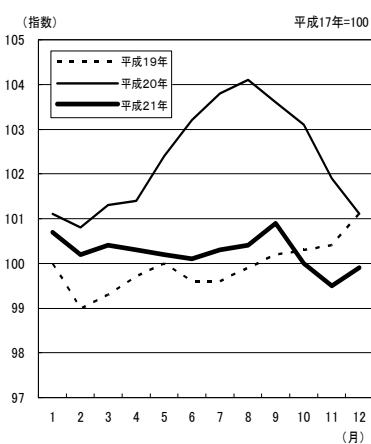


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

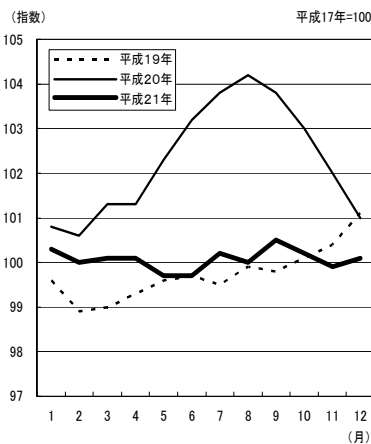
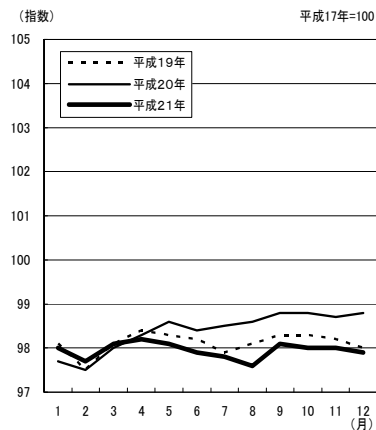


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



## 10大費目指数の動き

(平成 17 年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及び エネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被及履 及び物	服 及び物	保 険	健 康	交 通・ 信	教 育	教 育	養 老	諸 雑費
当月指数	99.9	100.1	100.2	97.9	101.5	95.7	98.8	105.8	93.5	102.2	97.9	98.7	102.1	93.1	101.3			
前月比 (%)	0.4	0.2	0.5	▲ 0.1	0.8	4.5	0.0	1.4	▲ 1.8	▲ 0.8	0.9	0.3	0.0	0.3	0.0			
寄与度	0.40	0.19	0.42	▲ 0.06	0.23	0.23	0.00	0.15	▲ 0.05	▲ 0.03	0.04	0.03	0.00	0.03	0.00			
前年 同月比 (%)	▲ 1.2	▲ 0.9	▲ 1.3	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 6.7	▲ 0.6	▲ 2.6	▲ 2.8	▲ 1.4	0.3	▲ 0.5	0.4	▲ 1.6	▲ 0.6			
寄与度	▲ 1.19	▲ 0.84	▲ 1.08	▲ 0.57	▲ 0.45	▲ 0.39	▲ 0.12	▲ 0.28	▲ 0.08	▲ 0.06	0.01	▲ 0.05	0.01	▲ 0.15	▲ 0.03			

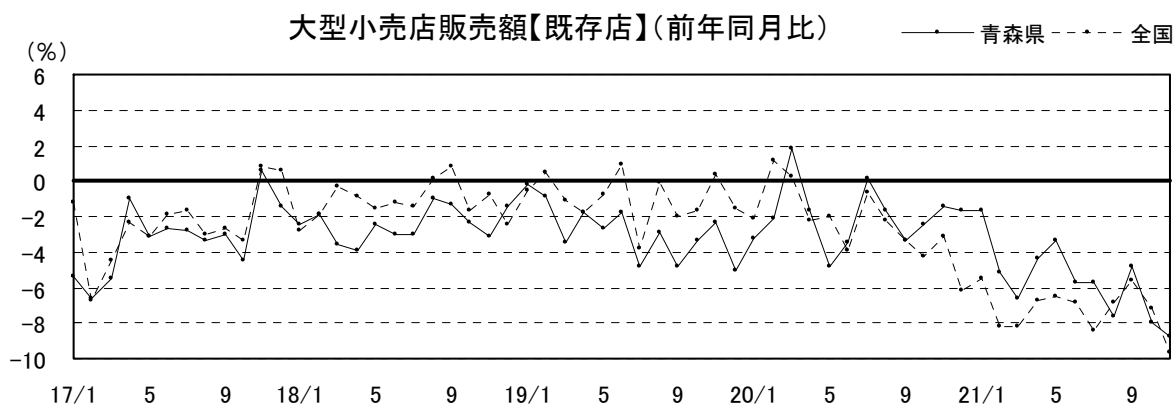
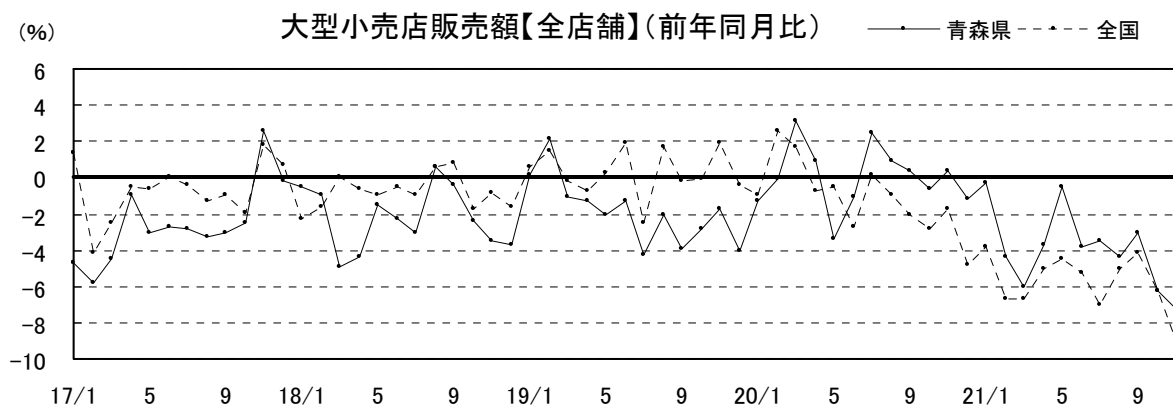
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

## (2-4) 個人消費

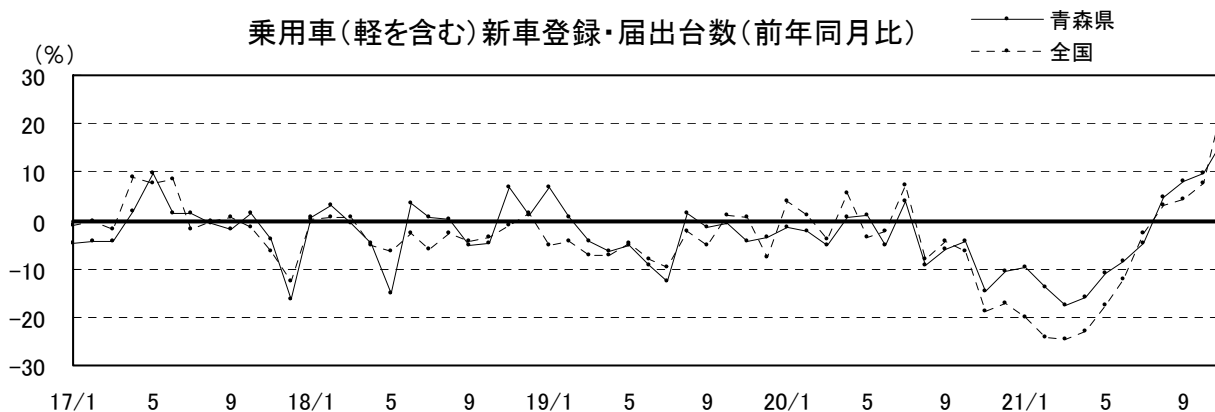
平成21年11月の大型小売店販売額は全店舗ベースが128億700万円で、前年同月比7.2%減と12ヶ月連続で、既存店ベースでは8.8%減と16ヶ月連続で減少となった。冬物衣料をはじめとして、全体として低調に推移したことによる。

平成21年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,739台で、前年同月比30.8%の増となり、5ヶ月連続で前年を上回った。普通車、小型車、軽乗用車いずれも増加したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

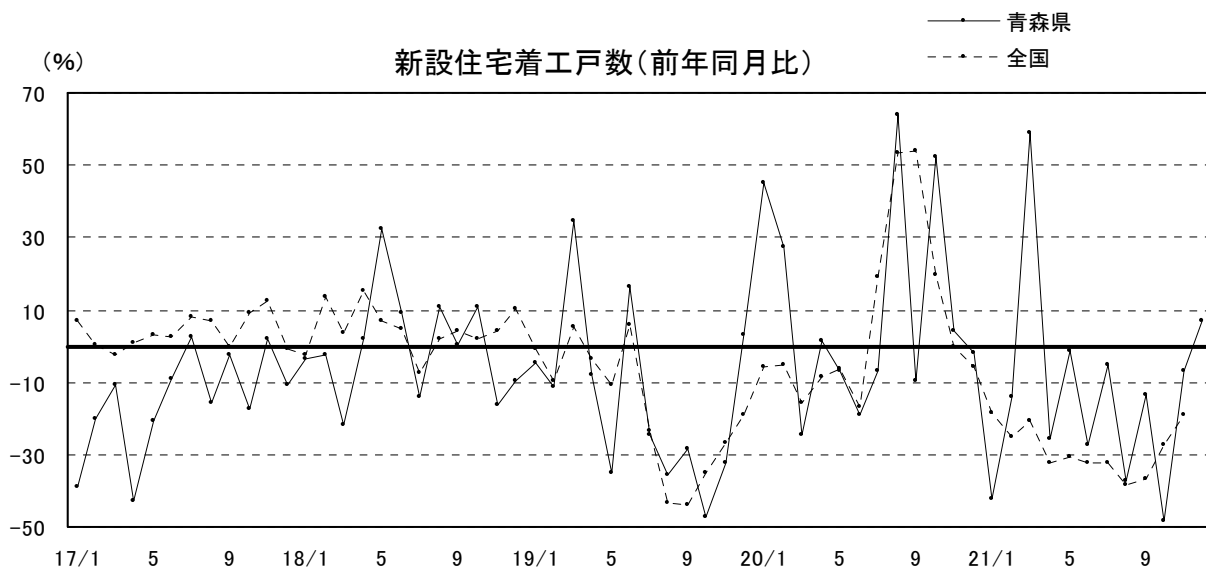
\* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

## (2-5) 住宅建設

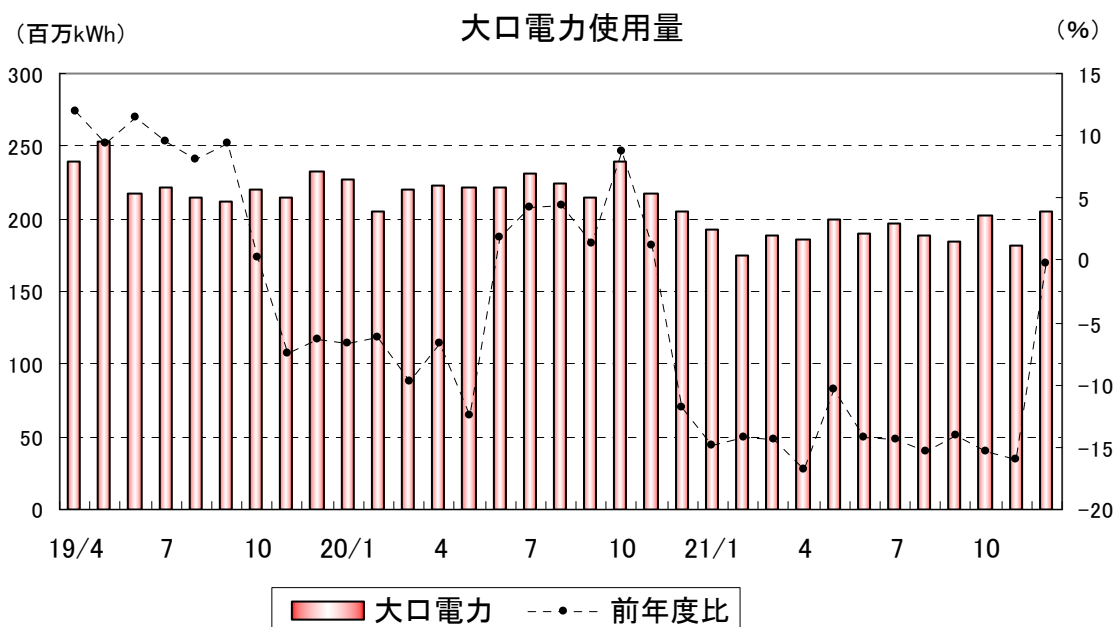
平成21年12月の新設住宅着工戸数は606戸で、前年同月比6.9%増となり9ヶ月ぶりに前年を上回った。分譲が減少したものの、持家、貸家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

## (2-6) 電力使用量

平成21年12月の大口電力使用量は2億500万kWhで、前年同月比0.2%減となり、13ヶ月連続で前年を下回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

### (3) 青森県景気動向指数

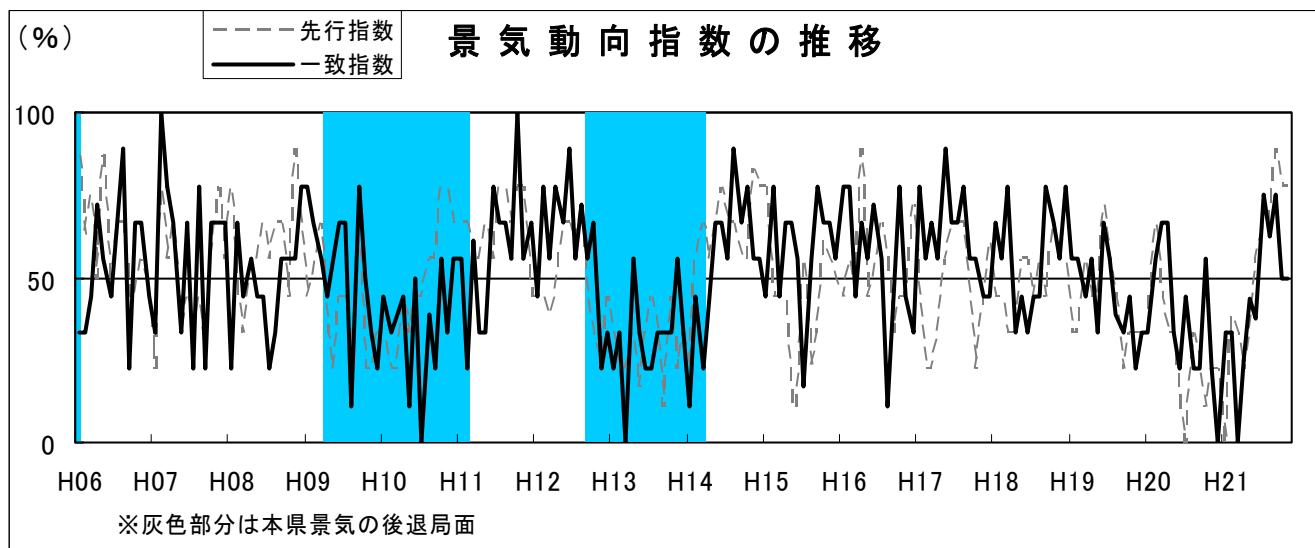
平成21年11月の青森県景気動向指数は、先行指数77.8%、一致指数50.0%、遅行指数83.3%となった。

先行指数は、6か月連続で50%を上回った。

一致指数は、2か月連続で50%となった。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を上回った。

11月の一致指数は、金融関連の指標がプラス、消費、物流関連の指標がマイナス、生産、雇用関連の指標がプラス・マイナス双方に割れたことから、50%となった。



#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています)

プラスの指標		マイナスの指標	
<b>先行系列 (9指標中7指標がプラス)</b>			
乗用車新車登録届出台数	5か月連続	入職率 (製造業)	6か月ぶり
生産財生産指数	5か月連続	建築着工床面積	2か月ぶり
新規求人倍率 (全数)	6か月連続		
所定外労働時間指数	5か月連続		
新設住宅着工床面積	2か月ぶり		
企業倒産負債額	2か月ぶり		
中小企業景況DI	6か月連続		
<b>一致系列 (8指標中4指標がプラス)</b>			
鉱工業生産指数	5か月連続	大型小売店販売額 (既存店)	10か月連続
電気機械生産指数	5か月連続	大口電力使用量	6か月ぶり
総実労働時間数 (全産業)	2か月ぶり	有効求人数 (全数)	5か月ぶり
日銀券月中発行高	5か月ぶり	海上出入貨物量 (八戸港)	2か月連続
<b>遅行系列 (6指標中5指標がプラス)</b>			
勤労者世帯家計消費支出 (実質)	4か月連続	単位労働コスト (製造業)	7か月連続
常用雇用指数 (製造業)	3か月連続		
1人平均月間現金給与総額	4か月連続		
輸入通関実績 (八戸港)	2か月ぶり		
青森市消費者物価指数 (帰属家賃除く)	13か月ぶり		

#### 資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※一致系列の物流関連指標「東北自動車道IC利用台数」については、ETC割引 (ETC搭載車は休日の高速道路上限1,000円乗り放題) が平成21年3月28日 (土)・29日 (日) から実施されたことによる影響を受けるため、当面の間、判定に用いないこととする。



#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

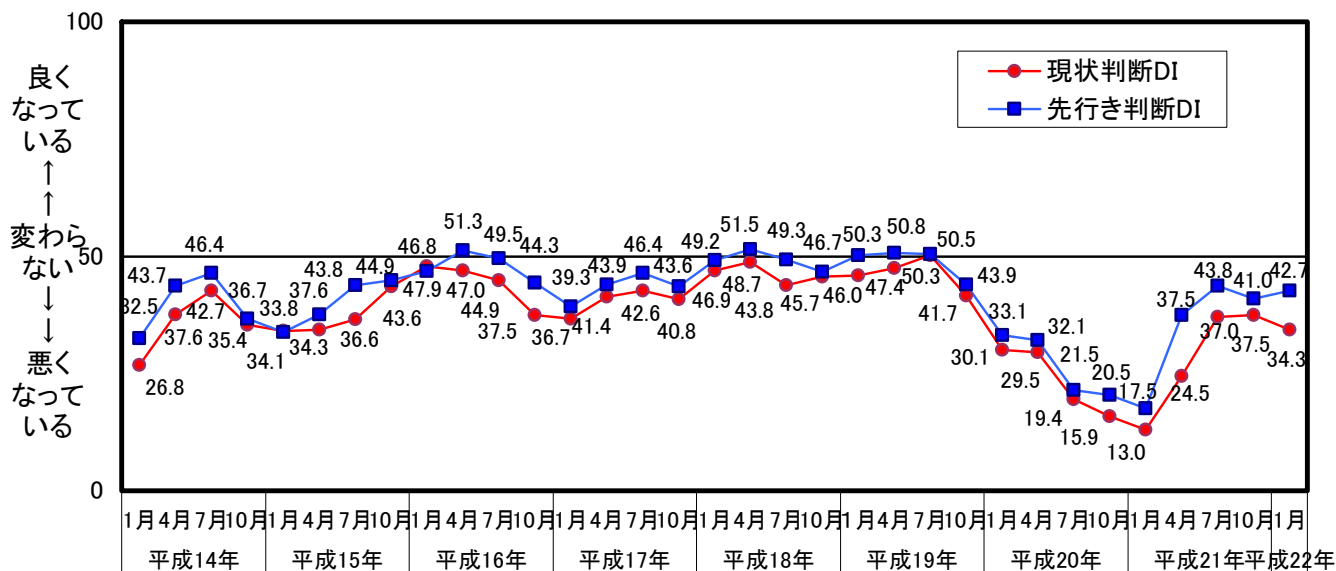
平成22年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月4日～1月18日を調査期間とし、回答率は99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは34.3で、前期調査を3.2ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは42.7で、前期調査を1.7ポイント上回った。

1月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに、横ばいを示す50を10期連続で下回っているものの、先行き判断DIが2期ぶりに上昇した。

#### 景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



#### ● 3か月前と比べた景気の実況判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が5.6ポイント減少、「悪くなっている」が6.2ポイント増加したことにより、全体では3.2ポイント低下の34.3となり、景気の横ばいを示す50を10期連続で下回った。</p> <p>判断理由をみると、客単価の下落傾向が止まらない、年末・年始も需要が低迷、過去最低の売上など、景気が悪い状況のまま変わらない、さらに悪化しているという声が多かったが、一方で、海外向けに需要回復が感じられるという声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青地区で7.5ポイント減少、津軽地区は変わらず、県南地区で3.8ポイント減少、下北地区で2.5ポイント増加した。</p>
--------	---

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「悪くなる」が1.9ポイント、「変わらない」が2.5ポイント減少し、「やや良くなる」が5.2ポイント増加したことにより、全体では1.7ポイント上昇の42.7となり、景気の横ばいを示す50を10期連続で下回っているものの、2期ぶりに上昇した。</p> <p>判断理由を見ると、日常的に不景気やデフレの話題があることによる心理的なマイナス感、長引く不況で先が見えない不安によるさらなる消費低迷への懸念の声が多かったが、一方で、新幹線全線開業に向けた期待の声が多く、また、住宅エコポイントへの期待の声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青地区で4.1ポイント減少、津軽地区で5.0ポイント増加、県南地区で4.9ポイント増加、下北地区では変わらなかった。</p>
--------	---

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 仕事量が増えている。主に中国向けとヨーロッパ向けに需要回復が感じられる。(電気機械製造=県南)
- 直近のクリスマスギフト商戦、及びお正月初売商品、クリアランス(冬物)商戦すべてにおいて、価格に対するシビアな選択眼、不急不要な品の購入数量が前年に比しても減じている傾向は、3ヶ月前と比し、ほとんど変わらないと思われる。(百貨店=東青)
- 来客数の増減はあまりないが、客単価が落ちている為、売上ダウン。生活にいっぱいいっばいで娯楽費に使う余裕がなく、見ているだけのお客様が多い。(パチンコ=県南)
- 宿泊しても、館内の飲食店を使ったり外出したりせず、コンビニ等で買物し、部屋ですごす方が相変わらず多い。(都市型ホテル=下北)
- 2月が底でその後徐々に回復してきましたが、ここ数ヶ月は踊り場のような状態でどちらへ動くのかわからない状況が続いています。(電気機械製造=津軽)
- 一部の業界では回復の兆しは見えるものの、景気悪化の影響から失業者が急増後、再就労できない方が多い。又、大卒、高卒者の就職率があまりにも悪い。(人材派遣=東青)
- △昨年、競合店一店舗閉鎖したことで客数は伸びているが、現状でも客単価、一品単価の前年90%が続く。年末・年始においても外食より家で食べる食材が売れた。(スーパー=津軽)
- △前年同期比でUターン希望者向け求人広告が大幅に減少。雇用状況は一向に改善が見られない。(新聞社求人広告=東青)
- ×B級品の品物ばかり売れました(御歳暮のシーズンでも)。年末の客入りがイマイチでした。(観光名所等=県南)
- ×一段と消費者の心理が悪化している様に思います。財布のヒモが更にかたくなりました。(一般小売店=下北)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 住宅エコポイントの導入などのかけこみ需要に期待。(住宅建設販売=東青)
- 東北新幹線全線開業の年度入りでもあり、一般市民の機運も徐々に盛り上がってきたという実感があり、これまで慎重な姿勢を続けてきたさまざまな業種で攻勢に転じるという期待が大きい。(新聞社求人広告=津軽)
- 変わらないという事は悪い状態。全く解りません。自分なりに努力して、そして、良くなるように期待しておりますが・・・(スナック=東青)
- 売上数量は増加しても、まだ続く物価下落によりトータル売上額は変わらず、すなわち所得に変化みられず、消費にも変化はないと思う。(家電量販店=津軽)
- 非常に悪い状況のままで、良くなれないと思われる。仕事となる工事見込件数が増加傾向にない。(広告・デザイン=津軽)
- 盛り上がりたいという気持ちはあるが、実際の消費の面からいうと、期待できない。明るい話題がない。(飲料品製造=県南)
- これ以上悪くならないで、という願望も込めて。特に冬期間は天候にも左右されるので、先が読めない。(食料品製造=下北)
- △社会全体が、不景気、デフレのニュース、話題ばかりで、気分的に買い控え傾向にある。(旅行代理店=東青)
- △昨年上期の公共工事前倒し発注効果も薄れるであろうし、緊急融資による一時的資金緩和もそろそろ効果が消えるとともに、公共工事の大幅なダウンが確定的であることから。(建設=県南)
- ×1月始まったばかりですが、お客様の単価がどんどん悪くなっています。(コンビニ=下北)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」